

8月4日（木）～6日（土）、下記12名の参加を得て、第5回WHCOB夏合宿が立山で行われました。

3期…小川戸、

4期…菅原（猪間）、植村、大竹、田上、徳渕、西海、花田、まとう（日向寺）、五十嵐

8期…齋藤（＝リーダー）、佐藤

以下、そのご報告です。

今年は例年より早く梅雨が明け、一時天候不順の涼しい日が続いた後、暑さがぶり返して山の涼が恋しくなるタイミングで合宿を迎えました。

標高712mの信濃大町から立山黒部アルペンルートへ、バス、トロリー、ケーブル、ロープウェイを乗り継いで標高2316mの大観峰へ至る間は、徐々に徐々に山の冷氣と靈気に包み込まれていくような心地良さを感じました。

大観峰から黒部湖をはさんで望む後立山の峰々の稜線には雲がかかっていたのですが、鹿島槍や針の木岳のピークがほんの少し顔をのぞかせました。

再度トロリーに乗って室堂ターミナルから表へ出ると神戸組の2人が出迎えてくれ、青空の下、少々ガスってはいるものの立山の山なみが雄大に広がり、2日間の宿となる「みくりが池温泉」の建物をすぐ近くに認めることができました。

誰の口からともなく出るのは、3年前に同じ立山で行った合宿の話。そう、あの時は3日間とも雨にやられ、初日は室堂ターミナルから一旦出たものの、暴風雨に押し戻される形でしばらく待機して、重装備の雨具を着けて雷鳴と氷雨の中を、室堂から30分弱の「雷鳥荘」まで歩きました。その後劇的に晴れ上がった日没前のひと時、残雪の立山をバックにした皆さんの浴衣姿が格別印象に残っています。そもそも今回の合宿は、計画段階からそのリベンジだ、ということでスタートしました。

今回の宿は、室堂から徒歩10分ほど。荷物を置いてからみどり池が池辺りへ出かけました。高嶺の花でいっぱい散策路で、頼りになるのは何といても「花博士」の存在です。皆の関心も年々高まって、図鑑を持参したり、花の名をメモする人が増えました。戻ってから早速この宿自慢の白濁の湯に手足を伸ばし、待望の生ビールに始まる夕食。その後、夕景に誘われて外へ出ました。立山にたなびく雲が翌日の好天を約束していました。部屋に戻っての小宴会でのお酒はほどほどにして、星空観察会へ移りました。都会ではほとんど見られなくなってしまった星空ですが、この夜は澄み渡った全天にちりばめられた無数の星、しかもわれらが「星博士」の解説付きで、星と星を結んで星座に名をつけた いにしえ人の豊かな想像力に思いをはせつつ、同宿の人ともども感激しながら見上げました。目を転じれば、地獄谷の彼方に日本海沿岸と思われる街の灯りがチカチカと光っていました。

2日目、早朝4時の湯船からは、明け行く空の下に剣岳の頂上を望むことができました。

この日は快晴、気温11℃。OB合宿で快晴の朝は初めてという声しきりでしたが、4年前、第1回参加のオリジナルメンバーからは唐松岳頂上以来との異論が出て、どうやらそちらが正解のようです。それはともかく、素晴らしい青空のもと、花と展望を楽しむ奥大日岳コースと立山信仰の神髄を探る雄山コースの2つに分かれて、7時過ぎに出発しました。

奥大日岳コースは、わずかに雪渓を残す雷鳥沢を渡ってから白や黄の花の咲き競うお花畑の中を登り、稜線に立てば目前に劔岳の岩峰が指呼の間に迫り、特に（旧）室堂乗越から深く切れ込む谷をはさんで青空にそびえる姿は圧巻でした。稜線にも花の種類は豊富で、夜の酒席で「花博士」が書き出した花の名前はすぐ50にもなりました。ただ、この日の天気の移り変わりは典型的な夏山タイプで、9時過ぎに稜線の上に湧いたと見えた雲が間もなく劔や立山を隠し始め、奥大日コースも雄山コースもそのうちにすっぽりとガスに包まれてしまいました。

奥大日コースで花を十分に堪能して早めの帰路に地獄谷を探勝したチームと、一の越からのザラ場に悩ませられながらも満足してきた雄山コースメンバーは、それぞれ宿近くまで戻って昼食をとり、ひと風呂浴びてから、これまた早めの乾杯の後昼寝。その後曇天のハイマツ帯に出現する確率が高いという雷鳥を求めてみどりが池方面へ散策しました。雷鳥を見た見たと騒いでいる子供たちがいたものの、期待に反して今回も最後まで出会うことができませんでした。往復7時間かけて登頂を果たして戻ってきた奥大日チームが、渴いた喉に美味しいソフトクリームを舐める頃には細かい雨が降り出しました。

入浴後適宜生ビールを飲んだせいか、この日の夕食は久しぶりに乾杯抜きでしたが、夕食後はやはり、それぞれが担いできた和洋の酒類とつまみ類による恒例の大宴会となりました。その量たるや、2日間ではとても皆んなのお腹に収まり切れずに半分はお土産となり、次回以降何らかの規制が要るのではというほどでした。夕方から本降りになった雨は、夜中には激しい雨音を屋根や窓に響かせていました。

3日目、この日も早朝のひと風呂からスタートしました。夜来の雨は上がっていたものの、浴室の窓の外にはガスが垂れこめていました。

みくりが池温泉は、標高2410mで日本一高所の天然温泉とされています。源泉100%かけ流し、無加水、無加温の硫黄泉。種々の効能が謳われており、その中の「・・・、五十肩、病後回復期、・・・」に覚えのある私は、もう少し長く滞在すべきだったかもしれません。朝食を済ませる頃になると雨も混じってきたので、予定していた3コースの歩きを取りやめ、2日間の好天で3年前のリベンジが果たせたという満足感を胸に信濃大町まで戻りました。

ところが山麓の町は夏の陽射しがまぶしいくらい輝いていましたので、臨機応変というWHCの良き伝統を生かして急きょ安曇野を巡ることになり、穂高駅まで行って

サイクリングクラブを結成しました。

安曇野は、NHKの朝ドラ「おひさま」のブームで、随所に幟旗がはためいていました。まずは腹ごしらえとそば屋へ入り、値段の割に美味で盛りのよい本場モノの信州そばを堪能した後、碌山美術館へ。荻原碌山という夭折した彫刻家の作品が鳶の絡んだレンガ造りの館内にずらりと並び、一つ一つの作品（人物）が何かを主張しているようで見応えがありました。続いて田んぼの中の道を自転車を連ねて、安曇野の定番であるわさび農場へ向いました。水車小屋を見たり、わさびソフトクリームをほおぼったり、わさび漬け作り体験に挑戦したりしてひと時を過ごしました。

貸自転車を返してから、3日間の締めは松本駅まで行き、北アルプスでのOB合宿の際の定番となった「鳥幻望」で、布施（4期）に迎えられての盛大な打ち上げを行いました。生ビールでの乾杯に続き、馬刺し、サーモン、湯葉揚げ、地場の野菜類、わさび漬け、2種類の手打ちそば、……。酒は越後の八海山に、信州の大雪山と、楽しい時間を過ごしました。町の中は折からの「松本ぼんぼん」というお祭りで賑わっていました。

今回も、齋藤リーダーはじめ皆さんに大変お世話になりました。

来年の夏合宿は、8月6日（月）～8日（水）で計画することになりました。
今年参加を見送った方も、どうぞ今からご準備を！